ビジネス共創ラボ

AI x IoTの可能性

過去・現在・そして未来へ

2026年3月6日

AIxIoTビジネス共創ラボ幹事企業
東京エレクトロンデバイス株式会社

クラウドIoTカンパニー　西脇 章彦

本日のアジェンダ

AIxIoTビジネス共創ラボについて

1 AIxIoTビジネス共創ラボとは

2 設立の経緯

3 具体的な活動内容

AIとIoTの現在地と未来

4 IoTのこれまで

5 現在のAIの状況

6 今後の展望

AIxIoTビジネス共創ラボについて

生い立ち・設立の経緯・活動内容

1 AIxIoTビジネス共創ラボの生い立ち

「Microsoft Azureをプラットフォームとする IoTビジネスを推進する人と人をつなぐハブになる」

2016年 発足 1

IoTビジネス共創ラボ発足

“IoT”は1社では困難

先進技術や事例の共有

「共創」という考え方 2

IoTデバイスとクラウドは
勝手につながらない

人と人のつながりにより
ビジネスが生まれる

地域版ラボの発足 3

地域の課題は、地域で解決

全国8地域で活動

2 設立の経緯 - なぜAIxIoTは生まれたのか

2015～

IoTブーム到来

工場や設備にセンサーをつけてクラウドで管理する動きが広まる
「つなげば便利になる！」という期待感

2016年2月

共創ラボ設立

IoTビジネス共創ラボが誕生し、勉強会・交流会がスタート
多くの企業がPoCを実施
IoTはデータ収集技術
“データ→人→判断“

2022～

生成AI革命

ChatGPT登場でAIが急に身近な道具に

誰でも使える時代が始まった

2024年11月

AI x IoTの融合

2つの技術がつながる
“データ→AI→行動”可能に

「本当に使えるデジタル化」が実現し始める

3 活動内容

勉強会

定期的な勉強会を通じて、最新技術、トレンド、活用事例を紹介し、実践的な知識やノウハウを共有

ネットワーキング

スタートアップ企業、業界リーダー、技術者などが交流し、AIおよびIoT分野で新たなビジネス機会やパートナーシップを構築できるネットワーキングの場も提供

4 AIxIoTビジネス共創ラボ コミッティ企業

幹事

東京エレクトロン デバイス

事務局

Microsoft

副幹事

UNIADEX

コミッティ企業

電通総研

TDSE

Knowledge Communication

BrainPad

AVEVA

LinkX

VISITS

5 地域版AIxIoTビジネス共創ラボ

aiiot ビジネス共創ラボ 北海道 ECOMOTT

aiiot ビジネス共創ラボ 上越妙高 JMiX

aiiot ビジネス共創ラボ FUKUSHIMA FCS FIC

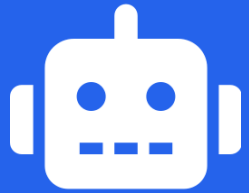
aiiot ビジネス共創ラボ 石川・金沢 北菱電興株式会社

aiiot ビジネス共創ラボ KASHIWA-NO-HA 三井不動産 MITSUI FUDOSAN

aiiot 関西AI×IoT ビジネス共創ラボ Kobe Digital Labo

aiiot ビジネス共創ラボ 中部 FSCreation

aiiot ビジネス共創ラボ NAGANO 株式会社 カウベル エンジニアリング COWBELL ENGINEERING CO.,LTD.



AIとIoTの現在地と未来

IoTの振り返り・現在のAI・今後の展望

6 IoTのこれまで - 期待と現実の10年

2015〜2020年代前半　IoTブームの現実

データを見るだけ

センサーをつけたけどデータをどう活かすか分からなかった

コスト・ROIが不明

初期費用が高く「本当に効果が出せるか」が見えなかった

社内にノウハウが残らない

IT専門家がおらず、ベンダー任せ。知識が蓄積されなかった

PoC（実証実験）止まり

試験導入はできても本番展開・全社展開ができなかった

▶

2020年代後半〜 変化の兆し

コストの低下

クラウドサービスの料金が下がり「手軽に試す」がしやすくなった

ノーコードツールが普及

プログラミング不要のツールが増え現場でも使いこなせる

AIとの融合で価値が出る

データをAIが解析し意思決定の「武器」に変わった

成功事例が積み重なる

「自社でもできる」イメージが持てるようになってきた

「つなぐ」時代から「活かす」時代へ、AIがIoTを本当に使えるものにする

7 現在のAI状況 - 生成AI時代の到来

2022年
11月

ChatGPT
登場

わずか2か月で
ユーザー1億人突破

史上最速の普及

生成AIは「誰でも使える道具」になった

ChatGPT・Copilot・Gemini・Claudeなど
メール・資料・アイデア出しに今すぐ使えるAIが無料から試せる

AIとIoTが組み合わさって強くなった

現場のセンサーや画像データをAIが解析
AIが「認識」から「理解」へ進化 → 人に変わって対応可能に

新しいビジネスチャンスが生まれる

「AIで何かできないか」のニーズが急増。IT未経験の中小企業でも参入できる。まず小さく試すことが近道。

8 今後の展望 - AI×IoTが描く未来

AI x IoT

IoTは
センサー
AIは
知能

つまり
AI × IoT とは
現実世界の知能化

Edge AI

AIが
クラウドから現場へ

・遅延
・プライバシー
・コスト
これが
Edge AI

Physical AI

今AIは
デジタル世界にいる
しかし、次は
Physical AI

現実世界のAI
・ロボット
・工場
・店舗
・社会インフラ
つまり
現実世界の自動化

9 では、人は何をするのか？

AIができること

膨大なデータの処理・分析

人が一生かかる量のデータを瞬時に処理

パターン認識・異常検知

繰り返し作業や微細は変化を24時間監視

最適化・予測

過去の出^たから未来を予測する

人だから
できる

人ができること

1 問を作る

「何を解きたいか」を決められるのは人だけ。現場の経験と直感から、AIには出せない「正しい問い」を立てる力。

2 システムを設計する

センサーの配置・データの流れ・AIへの指示設計。 業務を知る人だけが、現場に合ったしくみを作れる。

3 新しいサービスを作る

AI×IoTを「道具」として、何を生み出すかは人間の創造性次第。地域の課題×技術が新しいビジネスになる。

AIは仕事を「奪う」のではなく、人が本来すべきことに「集中させてくれる」道具でありパートナーである

aiiot

ビジネス共創ラボ

ともに、未来をつくりましょう